

性的に我儘で困るんだがね」

新吉は春子が居ない事に無關心を装はつてゐたが、寸時無想庵に、結婚出来ないだらうかと聞きた。

「親が許すまいね」

成程。

では久さんでも好い。

僕がうるさいので歸したんだらうと新吉は思つた。

「出掛けるかね、裾野へ。」

静かな林間の景色の好い所だそうだ」

無想庵が斯う言つてゐると、文子夫人が血相を變へて出て來た。

「あなたが出掛けるなら、私は行かない」

無想庵は石にしやがれた藁のやうな恰好になつた。

結局ブジ／＼言ひ乍ら文子夫人は、俥に乗つて停車場へ向つた。